

## 1. 調査目的等

小学校2年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

標準偏差値50をこえる。

## 3. 指標にむけての取組

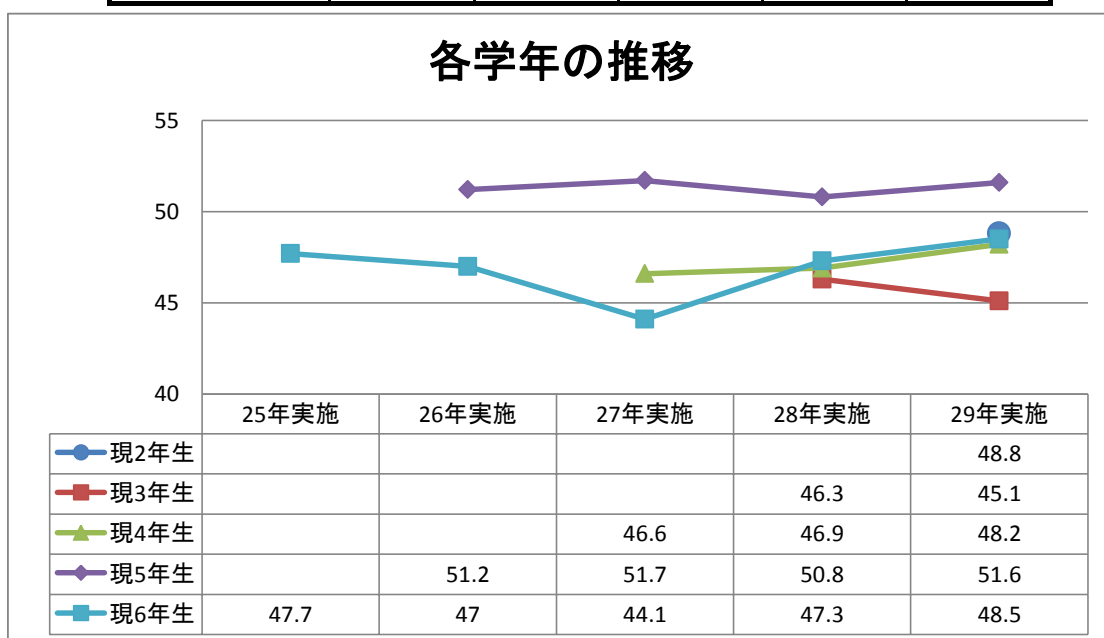
- 重要単元の設定(NRTの結果をもとに、各学年の重要単元を設定し、指導方法工夫改善教諭が指導方法を工夫し、授業を行う。)
- アシストシートの活用(家庭学習、学級裁量の時間などで活用する。)

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本校(A)	48.4	49.8	48.7	48.6	48.4
嘉麻市(B)	49.8	50.0	50.8	50.7	51.5
(A)－(B)	-1.4	-0.2	-2.1	-2.1	-3.1
標準偏差値との差 (A)－(50)	-1.6	-0.2	-1.3	-1.4	-1.6

### 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- 重要単元において、指導方法工夫改善教諭が指導方法を工夫し、授業を行ったが、成果につながらなかった。指導方法を工夫改善してくとともに、日常的な授業改善を進める必要がある。
- アシストシートの活用が不十分だった。意図的・計画的に活用していく必要がある。

## 6. 各学校における今後の取組

- 指導方法を工夫改善していく。(習熟度別学習など。)
- 日常的な授業改善を進める。
- 家庭学習の充実を図る。(10×学年+10)分以上の家庭学習時間が確保できる課題の内容と量を提示し、90%以上の児童が家庭学習の時間を守るようにする。また、朝の提出率も90%を超えるようにし、習慣化に向けた取組を進める。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を実施する。また、短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。
- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修における授業参観指導を実施する。
- ◆ 基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個の学習課題に応じた週末課題の提示を進める。